

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	造園実習 1
科目基礎情報				
開設学科	土木・造園科	コース名		開設期 前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 60時間
単位数	2単位	授業形態	実習	
教科書/教材	造園施工必携 日本造園組合連合会			
担当教員情報				
担当教員	小山恵久、鶴田真二、伊豆浦友音		実務経験の有無・職種	有・施工管理
学習目的				
植物を含む“自然”とのつきあい方を理解し、人工物とは違う成り立ちのものに接するときの作法を身につけること、および造園作業を安全かつ正確に進めるためのポイントを理解することを学習目的とする。特にこの造園実習1では、造園工事の中でも特に植物を扱う作業についての基礎的な知識と技能を習得することを学習目的とする。				
到達目標				
植物およびその生育に必要な環境（土壌、日照、水分等）について理解すること、植物によって異なる性質を理解し、個々の性質に適した作業を行うことができること、作業を安全に進めるための手順や注意点について理解すること、準備・片付け・清掃も「しごとの一環」であることを理解すること、自分と考え方も能力も違う仲間とコミュニケーションをとって協働作業を成立させることができることを到達目標とする。				
教育方法等				
授業概要	屋外での実習を基本とする（天候等により授業内容、順序等を変更する場合がある）。実習中はメモ帳を携帯し、気づいたことはその場でメモを取り、教員に質問をしたり、テキストで復習をしたりすることを求める。グループワークを基本とし、教員主導ではなく、各グループがメンバー同士でコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことを原則として、授業を進める。実習前の準備や実習後の片づけも重視する。			
注意点	実習には危険を伴う作業も含まれるため、レクチャー中および実習中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。服装は作業に適したものであること（サンダル、短パン等は認めない）。ヘルメットや手袋の着用など、教員の指示に従うこと。着替えは始業前に済ませておくこと。高い気温の中での作業時には水分の補給を認めるが、水・お茶類・スポーツドリンクのみとする。授業時間数の4分の3以上出席しない者は単位を認定しない。			
評価方法	種別	割合	備考	
	課題	50%	実習課題への取り組みを総合的に評価する。	
	成果（実技）	20%	実習課題に対する到達度、成果を評価する。	
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。	
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	土の種類と特性、土壌改良材	土にもさまざまな種類があることを理解し、代表的なものの特徴と名称が言える。		
2回	花壇の植栽デザイン	草花の特性を理解し、グループワークによる植栽デザインを提案することができる。		
3回	花壇の耕耘	植物の生育環境として重要な土性について理解し、耕耘の意味を理解する。		
4回	花壇の整地、割り振り	整地、割り振り作業など、植栽するための基盤整備ができる。		
5回	花壇 草花の植えつけ	花苗を適切に取扱い、植えつけることができる。		
6回	肥料、殺虫剤、殺菌剤	肥料、農薬の性質を理解し、安全かつ適切に使用することができる。		
7回	張芝工	整地・張芝・養生の作業のポイントを理解し、芝生を造成することができる。		
8回	剪定（刈り込み）、マツの手入れ	樹木の刈り込み作業、およびマツのみどり摘み作業ができる。		
9回	芝刈り、除草	芝刈り機を安全に取扱い、芝生の刈り込みができる。		
10回	コケ	コケの種類、生育環境を知り、緑化事例におけるコケの使用方法について理解する。		
11回	植物の増殖方法	接ぎ木、取り木、挿し木ができる。		
12回	植物の管理 灌水	植物の育成に欠かせない水やりについて理解する。		
13回	木工	のこぎり・玄翁等の道具を安全かつ適切に使うことができる。		
14回	道具の手入れ	刃物研ぎのポイントを理解し、ハサミ等を研ぐことができる。		
15回	根系と光合成	植物の地上部と地下部の関係、光合成のメカニズムについて理解する。		